●読む会へのおさそい●

私たちはそれが言葉にならないものであっても、重症児者の瞳のゆらぎに、自閉症児者の自傷やパニックのなかにも、その人の内面理解を深めてそこに発達へのねがいを読み取って、実践を展開しようとしてきました。あらためて、子どもの権利条約や障害者権利条約から障害のある子どもの権利、とくに意見としての view を聴かれる権利を捉え直し、そして、近年の国内のこども基本法の制定やこども家庭庁の政策動向も視野に入れつつ、保育・教育の実践を考えていきましょう。

「子どもの思いや願いを実現できるかどうかは、子どもががんばって意見表明をすることではなく、周囲の大人…にかかっている」「障害のある子どもの気持ちや願いを聞きっぱなしにするのではなく、政策や制度改善へとつなげていくには、政策決定者の姿勢が問われる」（安部論文）とあります。私たちが発達保障のためになににどう取り組むかを、ここから考えていけたらと思います

障害者問題研究を読む会では、執筆者に直接語ってもらいながら、編集委員も読者もいっしょに意見交換をします。参加者からは、ひとりではなかなか読み切れないが、読む会でみんなで学べた、興味深い意見交換になった、という声が聞かれます。あなたも、この学びあいに参加してみませんか。

読む会はオンラインリモートです

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは

全障研出版部
東京都新宿区山吹町 4-7　新宿山吹町ビル 5 階
電話 (03) 6265-0193　FAX (03) 6265-0194　www.nginet.or.jp

全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第５３巻 第３号

特集

障害のある子どもの意見表明権を考える を読む会

Vol.53
No. 3

日時 2026 年 1 月 30 日（金）19:00～21:00

Zoom ミーティングによる開催

障害のある子どもの意見を聴かれる権利の意義や，それを保育・教育実践にどう落とし込む必要があるのかを考える

【話題提供および進行】

楠 凡之さん（北九州市立大学）

山中冴子さん（埼玉大学）

障害のある子どもの「意見を聴かれる権利」と保育・教育実践

【参加者の意見交流】

○参加費無料。お手元に当該号をご用意ください
（参加申し込みフォーム（右）から注文できます）

参加申込

https://form.run/@shoumonken53-3

問い合わせ 全障研事務局 info@nginet.or.jp